

JICA事業紹介

地域提案型研修事業

Mr. Amon Wesley Phiri (マラウイ)

ロビ地区園芸技術普及プロジェクト統括責任者

6/29-10/31まで、滝川市にて研修中



マラウイの農村で普及活動を行うアモンさん(左)

現在、農家とともに働きながら、タマネギの栽培技術を教わる研修生が滝川にいる。マラウイ出身のAmon Wesley Phiri氏、通称アモンさんがその人だ。

アモンさんの出身地マラウイのロビ地区は、首都リロングエに近いことから、首都への食料安定供給基地としての役割を期待されており、政府農業省からも重点開発地域に指定されている。しかし、ロビ地区は野菜栽培に適した立地条件であるものの、現地農民は適正な栽培技術を持ち合わせておらず、農民から持続可能な栽培技術の開発、普及が強く要望されている。

そんな中、マラウイ政府の要請に応える形で、日本から青年海外協力隊（JOCV）の隊員チームが現地へ派遣され、現地の農業普及員と協力しながら野菜栽培、土壌肥料、病虫害などの分野で現地に適した技術開発とその普及を行っている。アモンさんは、この日本マラウイ共同プロジェクトの責任者であり、また協力隊員のカウンターパート（日本人技術者の現地同僚）として、実際に普及現場を駆け回っている人物でもある。

今回の研修は、協力隊員から得た知識を補完・強化したいマラウイ側の意向と、国際交流を通じて地域振興をはかってきた滝川市側のニーズが合致し、北海道において初めてJICA研修員を市町村に受け入れていただく「地域提案型研修事業」が実現した。

7月3日、初めてアモンさんが滝川市を訪れた際には、林市長はじめ市の主要関係者が一堂に集まり、アモンさ

んを熱烈に歓迎して下さったことで、滝川市の国際交流に対する並々ならぬ熱意がうかがえた。

現在、主に農家で栽培技術の実技を学ぶアモンさんであるが、今後は市内に花・野菜センターや植物遺伝資源センターを擁する滝川市の地の利を生かし、育苗管理や品種改良技術の理論面からの強化も図ってゆく。また、研修終盤に道内は実りの秋を迎えるが、近郊の新十津川農業学校で収穫祭に参加し、地元の高校生と交流を深めることも計画されている。

アモンさんは人なつっこく外向的な性格で、日本の農協システムや農産物流通にも興味を示すなど、研修に非常に前向きに取り組んでいる。今回の研修成果が、アモンさんの祖国において農業產品の生産量アップにつながるのみならず、末永く日本とマラウイの友好の一助となることを願いたい。

開発パートナー事業

近年、開発途上国の開発においては、住民の生計向上を直接支援する住民参加型の社会開発や教育、保健、環境問題など地域住民向けの行政サービスの向上につながる協力が重要となってきています。また国や地域を越えた、市民間の協力や自治体間の交流も活発になってきています。

このような状況のもとに、小規模できめ細かい対応が必要な社会開発分野や環境保全分野の協力を進めるに当たり、JICAは実施のノウハウを持つ我が国N G O、地方自治体、大学、民間企業等をODA事業のパートナーとして位置づけ、こうした連携して事業を進める「開発パートナー事業」を平成11年度より開始しました。

＜事業対象分野＞

以下に該当する事業が委託事業の対象となります。

- ・社会開発分野
- ・環境保全分野
- ・知的支援分野

＜対象国＞

対象国は、当面は国際約束形成と効率的な事業管理の観点から日本大使館とJICA在外事務所双方が所在する国に限定され、当面はアジア13ヶ国、中南米7ヶ国、大洋州2ヶ国、中東2ヶ国、アフリカ6ヶ国に限定しています。対象国については、毎年見直しが行われる予定です。

＜対象団体＞

以下の4つのカテゴリーのいずれかに該当する本邦に拠点を有する団体が事業の対象となります。

- ①海外での国際協力活動の実績を有する民間援助団体
- ②大学
- ③地方公共団体または地域国際化協会
- ④その他案件の内容に応じて、委託事業の実施団体として適切と認められる民間又は公共の団体
なお、民間会社については、JICAの契約競争参加有資格者としてJICAに登録されていることが必要です。